

令和7年度 第1回 三木市介護保険運営協議会 議事録

1 日時

令和7年11月7日(金) 午後1時30分～午後3時00分
三木市役所 4階 特別会議室

2 出席者

池田委員【会長】、楳田委員、鷲尾委員、谷口委員、成徳委員、加藤委員、
道本委員、坂本委員、井上委員、長谷川委員、村川委員、吉村委員

【事務局】

山城健康福祉部長、春川介護保険課長、坂本高齢福祉課長、
松本高齢福祉課副課長兼地域包括支援センター所長、
藤枝介護保険課事業管理係長、中下介護保険課認定給付係長
深谷高齢福祉課介護予防係長、渋谷高齢福祉課地域包括支援センター主査
井手介護保険課主任、吉原高齢福祉課主任

3 公開

傍聴人 なし

4 会議内容

- (1) 開会 春川介護保険課長
- (2) あいさつ 山城健康福祉部長による挨拶
- (3) 新委員の紹介、委員長の選任
池田会長挨拶
- (4) 協議事項
 - (ア) 令和6年度の介護保険事業について(報告)
 - (イ) 令和7年度の介護保険事業について
 - (ウ) 第10期介護保険事業計画の策定について

— 事務局 —

- 資料に基づき説明(事務局各担当)
- (ア) 令和6年度の介護保険事業について(報告)
 - ・令和7年度第1回三木市介護保険運営協議会資料(P3～P19)
 - (イ) 令和7年度の介護保険事業について
 - ・令和7年度第1回三木市介護保険運営協議会資料(P20～P24)

事務局：

続けて事前にいただいていた質問について回答いたします。

資料 15 ページの総合相談支援業務について質問がありました。総合相談支援の中で、地域包括支援センターの支援内容の中、「認知症に関すること」が「介護保険総合事業に関すること」に次いで 1,365 件となっています。この具体的な内容についてお尋ねしますということでした。

回答としましては、

- ・物忘れが心配
- ・認知症の自己チェックをしたい。
- ・医療機関の情報を知りたい。
- ・医療機関の受診や介護サービスを拒否する。
- ・認知症の症状がひどくなり、生活に支障が出てきた。
- ・道に迷い家に帰れなくなり、警察にお世話になった。
- ・お金の管理ができなくなってきた。
- ・車の運転が危ない。
- ・家族の介護に疲れている。
- ・友人は認知症だと思う。どう接したらいいのか。

など、本人や家族、また地域住民の方だけではなく、介護支援専門員の方や警察の方、金融機関などからの相談もありました。

先ほどの安心ガイドブックの裏に、兵庫県版認知症チェックシートというのがあります。ちょっと気になるという方向けのチェックシートになっています。

続きまして、三木市の介護分野での人材不足状況について回答いたします。

市では介護人材確保のため、介護福祉士資格取得費用の一部の補助を行っています。

また、介護に関わる人を増やす取り組みとして、本日お配りしたチラシにある「介護に関する入門的研修」を、今月と来月の計 3 回、県との共催により開催する予定です。

他にも、兵庫県が地元で新しい働き方を支援するケアアシスタントの募集について、市の広報誌を活用し、告知しています。ケアアシスタントは短時間、短期間介護現場で働くことができ、期間終了後に引き続き勤務を希望した場合、勤務可能となります。シニア世代、子育てが一段落した方学生などを介護人材に繋げることを目的としています。

現在の実態を把握するため、介護人材実態調査を実施する予定で、その結果を踏まえ、引き続き介護人材への取り組みを行っていきたいと考えております。

委員：

認知症初期集中支援チームについて、チーム員活動回数として97回とあるが、実際にはもっと活動されているのでは。1,365件ぐらい認知症に関することの相談があるが状況を教えてください。

事務局：

民生委員からの相談やご家族様からの相談でお家の方に訪問させていただくケースもありました。

その中で、本人が病院を拒否されるが、家族としては医療機関へ繋げたいという中で、認知症初期集中支援チームというのがあります。同意を得られた家族の方

に、病院の先生と初期集中のチーム員で、訪問させていただいたり、医療機関との連携・面談を行っています。

全員が初期集中に関わるというのではなく、相談の中から必要な方について、初期集中支援チームの方で対応しています。

委員：

三木市の認定率は全国平均より低くなっています。県内でも平均以下になっていますが、三田市や加東市はもっと低いですね。

これは何かをして低くなっているのか聞かれたことはありますでしょうか。参考になることがあれば、また三木市の方でも何か施策になることがあるのではと思うんですけど、そういうことは聞いていますでしょうか。

事務局：

三木市と同じように介護予防などを積極的に取り組んでいると思いますが、また情報収集を行います。

数年前まで三木市の方が認定率が低かったのですが、高齢化が一気に進んだことで、順位が入れ替わっているという面はあります。

委員：

令和12年見込で、要介護認定率が23%ということになっていますが、ピークは何年度ぐらいの見込みでしょうか。

事務局：

三木市においては85歳以上の人口のピークを迎えるのが、令和17年ぐらいを予想しており、要介護認定者数、認定率、認定者数についても、同じように令和17年がピークを迎えるというふうに考えております。

9期介護保険事業計画の試算ですと、17年度の要介護認定者数が6,200人程度の予想になっており、そこから先は、要介護認定者総数も、85歳人口の減少に合わせて減っていくのではないかと見込んでおります。

委員：

高齢者ファミリーサポートセンターは、社会福祉協議会に委託されているんですが、協力会員の登録者数がまだ少ないように感じます。依頼会員は335人、協力会員は74人ということですが現状いかがでしょうか。

委員：

ファミリーサポートセンターについては市の事業ということで先ほど説明ありましたが、助けあい支えあって、できる方が困った人ということを仕組化したような事業になっています。

依頼会員の方は結構口コミで増えています。ただ、協力会員がなかなか増えていない。協力会員を増やすため、説明会や研修会を各公民館で実施しています。それとあわせて先般、三木北高校で、ファミリーサポートセンター事業の説明であったり、実際高校生におうちに行って、草引き体験などそういうプログラムを授業の中に取り入れていただいていることで、いずれ高校生がそういう形で取り組んでいたけらと。あと高校生が SNS でファミリーサポートセンターを PR するような動画を授業の中で作っていただいたりしています。16 歳から登録ができるようになっておりますので、若い方にも関心持ってもらえるよう市とともに進めておるところです。

ただやっぱり頼まれる方が多く、協力会員を募集し続けているというのが課題ではあります。

— 事務局 —

資料に基づき説明（藤枝係長）

（ウ）第 10 期介護保険事業計画の策定について

・令和 7 年度第 1 回三木市介護保険運営協議会資料（P25～P28）

= 委員からの質問なし =

— 議事終了 —

5 閉会

煤田委員

終了 午後 3 時 00 分